

# 麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 動物応用科学科

職階 准教授

氏名 山本 誉士

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

## 1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

2024年度は学部13科目（うち、オムニバス3件）、大学院2科目の授業を担当した。また、研究室では3年生9名、4年生9名、獣医5年生2名の研究指導をおこない、大学院生6名の指導補助に携わった。教育においては単に知識を教えることのみならず、学生自身が考える力を培うことで、課題解決に対する応用力に繋がるように意識している。特に、マインドマップ等を用いて知識を集約・選別して物事を論理的に説明できる力の涵養に努めている。また、野生動物学野外演習や卒業研究では、野外フィールドで動物達が生きている環境に実際に身を置き、自然を俯瞰して考えることで、座学で学んだ知識を実感できる機会を提供している。その他として、課外授業として、学科や学年を問わず、データ解析や統計手法に関する講義の実施や研究相談を受け付けている。

| 科目名                | 学科・専攻            | 単位種別 | 配当年次 | 受講者数(単位:人) |
|--------------------|------------------|------|------|------------|
| 基礎野生動物学            | 動物応用科学科          | 必修   | 2    | 161        |
| 野生動物学              | 動物応用科学科          | 選択   | 3    | 97         |
| 進化・分類学             | 動物応用科学科          | 選択   | 2    | 49         |
| 専門ゼミ               | 動物応用科学科          | 必修   | 3    | 8          |
| 卒業論文               | 動物応用科学科          | 必修   | 4    | 9          |
| 科学の伝達              | 動物応用科学科          | 選択   | 4    | 8          |
| 野生動物野外演習           | 動物応用科学科          | 選択   | 3    | 56         |
| 基礎ゼミ               | 動物応用科学科          | 必修   | 1    | 148        |
| 動物応用科学概論           | 動物応用科学科          | 必修   | 1    | 140        |
| 動物人間共生論            | 動物応用科学科          | 必修   | 1    | 147        |
| 動物応用科学実習           | 動物応用科学科          | 必修   | 1    | 143        |
| 地球共生系データサイエンス・同演習Ⅰ | 全学科              | 自由   | 2    | 23         |
| 地球共生系データサイエンス演習Ⅲ   | 獣医保健看護学科         | 選択   | 3    | 2026年度開講   |
| 野生動物学特論Ⅰ・Ⅱ         | 動物応用科学専攻（博士前期課程） | 選択   |      | 8          |

## 2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

教育では、物事に対して「なぜ？」と考える追求心や探究心を持った人材の育成を目標としている。近年はインターネットやAIを用いて調べること容易に情報にアクセスすることができる一方、表面的もしくは雑学レベルの知識習得に留まることが多いと感じている。物事の原因やメカニズムといった本質まで理解することで応用力に繋がり、疑問に思うことで新たな気づきが生まれる。そのようなサイクルを習慣化することで、多角的かつ多面的に物事の繋がりを意識することができ、自主的な学習姿勢および幅広いかつ実践的な知識・技術の獲得に繋がると期待している。また、進化・分類学の授業では、大学内にある博物館を活用し、実際に標本を見ながら解説することで、座学で学んだ知識の本質的理解を試みている。学生研究においては、調査が単なる作業にならないよう、なぜそれを調べているのか、それを調べることがどのように当該分野に貢献するのか等を常に考えるよう促すことで、物事を俯瞰する意識の涵養に努めている。また、野生動物の研究は一人では実施することが難しく、現地の人々をはじめとした様々な協力が必要不可欠である。そのことを私自身の体験談を交えて説明し、何事においても人に対して真摯であることの重要性を理解し、実践できる人材の育成に取り組んでいる。

## 3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

大学では一般教養や専門分野に関する幅広い知識を学ぶが、それぞれの知識を多角的・多面的に関連づけて考え、課題解決に応用するためには、単なる暗記に留まらない「理解」が必要である。そこで、授業や実習では学生に問いかけることで物事に対して疑問をもつ姿勢を示すとともに、少し冗長になってしまうこともあるかもしれないが、現象の原因やメカニズムなどについて詳しく説明するように努めている。疑問を持つことで物事を深く理解することができ、そこからまた新たな疑問が生じる。そのサイクルを楽しむことができれば、自主的な学びに繋がると期待している。特に、実習や卒業研究で野外フィールド等に出た際には、課題を与えずに自然や動物をゆっくり眺めてもらう時間を学生に与えることで、自身で様々な不思議や疑問に気付くことができる機会を意識して取り入れている。また、可能な限り学生と日常的にコミュニケーションをとるように努めている。教員との間に信頼関係を築くことで、間違えた回答や議論することを恐れず、学生の自由で柔軟な考え方を促すことができていると感じている。そして、質問や疑問に対して単に答えを与えたり、正したりするのではなく、まずは学生自身の考えを引き出し、一緒に答えを導き出すことで達成感や自己肯定感を高めていきたいと思っている。考えるという作業は最初の頃はとても大変で難しいことである。しかし、それを乗り越えることができれば、きっとどのような分野の業種においても、彼らが活躍していく力の一つになると信じている。一方、私自身も学生の模範となれるよう、常に考えることを楽しみながら研究や教育に取り組む姿勢を心掛けている。

### (1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

講義では用語や内容の暗記のみではなく、時には答えのない問いを学生に投げかけ、それぞれが自身で考える機会を持つようにしている。また、学部生および大学院生の指導では、複数人での議論を積極的に取り入れ、自身と異なる研究テーマについても考えを巡らせることで、幅広い知識と視野を涵養するよう努めている。少人数の授業では、唯一の回答があるわけではない問題をアンケート等で掲示し、類似回答をいくつかに分類し、それらについてみんなで考える機会を設けている。一方、100人を超える授業でのグループディスカッションについては、成功事例などを参考にして今後検討・導入していきたい。近年では学生もリモットツールの使い方に慣れてきたと思うので、オンライン上でグループを作成して議論するなど、いくつかの実践案を検討している。また、授業以外にもRソフトウェアの使い方に関する自主ゼミを企画して学びを支援することに加え、学生達で互いに教え合うことで理解が深まるように取り組んでいる。

### (2) ICTの教育活用

有

授業資料にワンクリックURLやQRコードを埋め込むことで、内容についてさらに学べる情報や関連動画を掲載している。また、オンライン匿名質問ツールを活用し、授業中にリアルタイムで学生が質問できるように工夫している。さらに、授業資料を事前に、授業動画を事後にAzaMoodleにアップロードすることで、予習と復習ができるように努めている。一方、学生とのやり取りにはGoogleチャットを積極的に活用し、より気軽に学生が質問しやすくなるようにしている。

## 4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

### (1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

A

授業資料は可能な限り文字を少なくし、重要なポイントを強調するなど、視覚的に見やすくなるように努めている。また、授業時間だけでは説明しきれない部分の補足もしくはさらに深く学びたい学生のために、資料を別に作成し、Google driveの共有リンクを資料に貼り付けることで充実した学びを提供している。さらに、一方的に聞いているだけの受け身の授業にならないように、配布資料の随所を空白にして、授業を聞きながら書き込むことで資料が完成するように工夫している。そして、毎回の授業は録画し、必ずAzaMoodleにアップロードすることで復習できるようにしている。授業開始直後は学生も集中力がないため、最初にアイスブレイクとして当該回の授業に関する時事ネタや最新の話題などを話している。なお、メリハリをつけるため、時限間の休憩を取ることに加え、集中が途切れていそうな時には適宜数分間のストレッチ休憩を取り入れている。また、どうしても長時間の集中は続かないため、理解度確認のための小テストや関連動画を効果的に活用している。

### (2) 学生の理解度の把握

B

授業ではほぼ毎回Google formを活用した小テストを実施している。そして、学生の回答結果（匿名）を授業内でフィードバックすることで、全体的な理解度を共有し、全体と比較した自身の状況を把握できるようにしている。一方、小テストの正解率に応じた個別の学生ケアまでは実施できておらず、今後は適宜、個別の補足指導を検討している。また、配慮申請により対面で授業に参加できない学生に対しては、積極的に連絡を取ることで、理解度の把握および修学フォローに努めている。

### (3) 学生の自学自習を促す工夫

A

関連する情報や補足資料、動画など、授業資料に埋め込みURLおよびQRコードを掲載することで、授業内容について一歩進んで学べる機会を提供している。ワンクリックで容易に情報にアクセスすることができることから、学生も積極的にリンク先の内容を確認してくれているようである。しかし、授業評価アンケートでは授業時間外学習が30分未満の学生も一定数いたため、補足資料も含めて授業が完成するように期末試験や課題を工夫する予定である。

#### (4) 学生とのコミュニケーション

B

疑問を持ったまま授業が進行しないよう、匿名質問ツールを活用し、授業に関する質問を学生がリアルタイムで投稿し、随時回答するようにしている。また、課題に対する学生の回答例や質問の一部は翌週の授業開始時に取り上げて詳しく解説することで、参加意識を持ってもらうようにしている。実際に、きちんと質問に対応してくれたことが嬉しくてモチベーションが上がったとの感想を得た。授業時間外の質問に関しては、対面やメールで随時対応している。一方、授業時間外のメールでのやり取りは少しハードルが高い学生も一部いるようなので、掲示板のような機能を活用しようと検討している。

#### (5) 双方向授業への工夫

B

匿名質問ツールを活用することで、講義が一方的にならないように工夫している。だが、人前で発言をすることも重要であると考え、こちらから学生に問いかけるなど、今後はより活発に学生が発言や口頭質問をできるように工夫して取り組んでいきたい。

## 5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

#### (1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

授業評価アンケートでは概ね高評価を得ており、特に匿名質問ツールを活用することで、授業中にリアルタイムで質問ができる点は学生に好評であった。一方、少し説明のスピードが早いという意見があった。この点については自分自身でも自覚があったため、以後の授業では話す速度を遅くするとともに、次のスライドに行く前に少し間を置くように努めている。

#### (2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

授業で話す速度をゆっくりとすることで、内容についての理解は進んだように感じている。しかし、個々の学生の理解度を可視化してフィードバックしたり、より積極的に質問ができるような工夫など、より個々を意識した取り組みを検討・実施していきたいと考えている。

#### (3) (2)を踏まえた次年度の取組

授業毎に随時質問ができる掲示板の作成、AzaMoodleの機能を利用した理解度の可視化など、個々の学生がより参加意識を持てるような環境づくり、そして学生へのフィードバックに力を入れていきたい。

## 6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

### （１）現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

説明速度が早いという点に加え、授業時間外学習が30分未満の学生が一定数いた。そのため、次年度は補足資料も含めて授業が完成するように工夫しようと考えている。これまでは補足資料の参照は学生の自主性に任せていたが、授業内でもリンクにアクセスし、要点を説明するようにしたい。また、授業終盤の授業評価のみならず、学生の感じていることを定期的にアンケート等で確認することで、可能な限り適宜改善していきたい。一方、マインドマップの活用方法を指導することで、物事を整理して論理的に考える力に向上がみられた。

### （２）（１）の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

以下は授業評価から一部抜粋である。また、他の教員からも、授業に対する学生の評判が好評であると伝え聞いている。今後もさらなる満足度の向上を目指したい。

- ・ 動画があって楽しかった
- ・ スライドの内容が分かりやすく、理解しやすかった
- ・ 資料が豊富だった
- ・ 学生が質問しやすいように工夫してくれていたため、質問しやすかった
- ・ 授業中に匿名で質問できるSlideを用いていて良かった。毎回授業録画を公開してくださったので復習ができて良かった
- ・ 中間レポートのような自分の頭の中でまとめられる機会をいただいた点
- ・ 配布資料に論文のリンクなどが掲載されていて、興味が沸いた内容についてさらに調べてみようと思った。
- ・ 資料がわかりやすかった
- ・ 実際の映像などを載せるなどして分かりやすく説明できていた
- ・ スライドは細かく授業では詳しく教えていただき、授業中にも質問ができるようQRコードを利用したチャットを開いていただいていたため質問しやすい環境であった
- ・ 授業内で行われた計算問題はあっていれば加点し、減点はしない方式が生徒のやる気をかきたて良いと感じた
- ・ 授業スライドが見やすくスライドに沿って授業していたので分かりやすかったです
- ・ 興味のある分野だったのもあって、楽しく聞けたし、個体別の性質からの繋がりや環境との関係まで幅広く知ることができてよかった
- ・ スライドに図などを使って丁寧に説明が書いてあり、理解しやすかった
- ・ スライドにQRコードがあり、随時質問ができるシステムがあったこと
- ・ 動物の動画を流しながらの授業が面白かった
- ・ 写真や動画、グラフなどが講義資料に多く入れられていたため理解がしやすかった

## 7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

FD研修や外部で開催されている勉強会などに積極的に参加している。また、他の教員とも指導方法について相談・議論し、常により効果的な指導方法を模索している。

## 8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

Chat GPTなどのAI生成ツールを用いることで、簡単に答えを得ることができる時代になったと感じている。一方、間違った情報を鵜呑みにしている学生も一定数みられる。今後の社会においては、AIをうまく活用することは推奨すべきであると考えている。一方、AIに惑わされないよう、物事の意味を考え、それぞれの関連を意識し、論理的に思考・判断できる力は必要不可欠な能力であると考えている。そこで、授業や研究指導において、単に回答を与えるのではなく、学生自身が考えて解決策や意義の理解に達するよう誘導し、論理的思考力の習得およびその楽しさを実感できるように努めている。そのような地力を培うことで、様々な分野の社会で活躍できる人材の育成を目標としている。一方、自身の研究にもしっかりと取り組み、その一部を学生と一緒に実施することで、彼らの研究力も高めていきたい。また、最新の研究成果の授業・教育への還元に加え、私自身が分野を開拓することで、学生の卒業後の進路を切り開いていきたいと考えている。

## 9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

特になし。